

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 112 号	氏名	福 島 和 子
学位審査委員		主 査	有 吉 紅 也
		副 査	片 峰 茂
		副 査	森 内 浩 幸
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、近年臨床現場で問題となってきたフルオロキノロン (FQ) 耐性肺炎球菌を迅速に検出する検査方法を、融解温度曲線分析 (MCA) 法を用いて開発し、その臨床的意義を評価したもので目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 レボフロキサシン (LVX) 耐性肺炎球菌臨床分離株 22 株と LVX 感受性肺炎球菌臨床分離株 50 株を対象とし、<i>gyr A</i> および <i>parC</i> 遺伝子のキノロン耐性決定領域 (QRDR) を PCR にて増幅後、主要な耐性点変異 4 箇所を MCA 法にて解析、ダイレクトシーケンス法および液体希釈法と比較検討したもので研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記実験を実施した結果、PCR-MCA 法は迅速に結果が得られること、またシーケンス法や液体希釈法との対比において十分に高い診断感度および診断特異度が得られることが示された。さらに、本法が従来薬剤感受性試験では検出不可能な耐性化ポテンシャルを有する肺炎球菌を検出している可能性について、適切に考察されていた。</p> <p>以上のように本論文は、FQ 耐性肺炎球菌を迅速かつ正確に検出する方法を確立したもので、同耐性菌対策に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			